

アラスカロケット実験研究会

会長：松本 紘，幹事：遠山文雄，岡田敏美

平成13年度活動報告： S R P (Student Rocket Program) 4号ロケット実験

日米の学生が協力して製作したロケットは、当初予定の3月4日より2週間ほど遅れたものの数々のトラブルを乗り越えて設計とおりの飛翔および科学観測に成功しました。NASA提供のエンジン部を除いて、ほとんどすべてを学生が設計・製作し、実験データを確認できたところに本プロジェクトに特徴があります。アラスカ大学は電波透過性のあるノーズコーン、尾翼、オンボードコンピュータ、GPS、ロケーションシステム、パラシュート展開による軟着陸システムなどを、富山県立大学は下部電離層電子密度計測を、東海大学は散センサーおよび微弱磁場計測を担当しました。また、ポーカーフラット射場の近くに設置された通総研のMFレーダの同時観測も実施されました。S R P顧問でアラスカ大学のホーキンズ教授の公式発表は以下のとおりです。

The SRP-4 payload was successfully launched at noon on 3/18/02 to an altitude of 89 km. The data looked very good on initial inspection. The payload separated from the rocket motor on schedule at 160 seconds. The parachute deployed higher than expected resulting in a total flight time of approximately 54 minutes. The SRP-4 payload was recovered by helicopter on Friday. --- Joseph G. Hawkins --

今後の予定： 分科会の開催

地球惑星科学関連学会 2002年合同大会（2002年5月27日-31日、国立オリンピック記念青少年総合センター、代々木）期間中に分科会を開催します。日時、場所は5月29日、1600-1900、C507（20人部屋）です。今回は、SRP-4のレビュー、次期ロケット実験の内容、資金獲得法、組織について検討します。本プログラムに興味をお持ちのある方は、どなたでもご参加ください。

以上

